

■「きぼう」を込めオープン 豊科交流学習センター

地域学習の新たな拠点となる安曇野市豊科交流学習センター「きぼう」が2月11日にオープンしました。

「きぼう」は、豊科図書館、熊井啓記念館、多目的交流ホール、学習室を備えた複合型交流学習施設。延床面積は約2616・47平方メートルで、豊科近代美術館隣に開館しました。（施設の詳細は広報あづみの1月号をご覧ください）

記念式典で宮澤市長は、建設までの経過に触れながら、「きぼうは市民の皆さんが自ら学び、利用できる施設。多くの皆さんからご支持いただいた名前に込められた願いを実現し、住み良く心豊かな地域社会の構築に貢献できるよう運営に努めます」とあいさつしました。

また、「きぼう」という愛称を命名した80人の応募者を代表して浅川真奈絵さん（豊科北中学校2年）が、「きぼうへの期待」と題した作文を読み上げました。

浅川さんは、「さまざまな年代の人に訪れて欲しい。来た人が情報や心の交流を深め、楽しみ、心に安らぎを持っていければ」と期待を話しました。

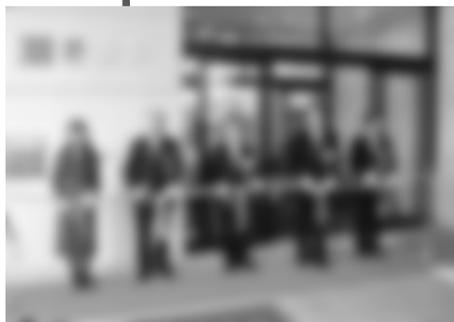
その後、正面玄関前で故・熊井啓監督の妻でエッセイストの熊井明子さんと関係者がテープカットを行い、開館を祝いました。この日は1249人が来館。大勢の市民らで終日にぎわいました。

施設の総事業費は、約9億9607万円。財源の内訳については下表のとおりです。

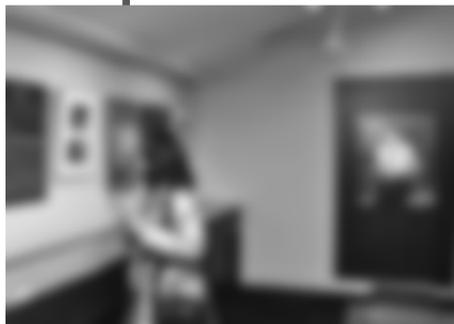
(総事業費)	9億9,607万円
(財源内訳)	
まちづくり交付金	2億3,000万円
基金	3億2,424万円
合併特例債	3億9,750万円
一般財源	4,433万円

完成を祝いテープカット

来館者でにぎわう豊科図書館



2階フロアにある熊井啓記念館



■三郷トマト栽培施設の指定管理者が決定

安曇野市議会は2月15日、臨時会を開催し、市の第三セクター「安曇野菜園株式会社」のトマト栽培事業を引き継ぐ指定管理者として、「株式会社エア・ウォーター農園」（札幌市）を選定する議案を可決しました。

指定管理期間は本年4月1日から10年間。安曇野菜園はこの契約に伴い解散に向けた手続きに入ります。

株式会社エア・ウォーター農園は、産業ガス大手のエア・ウォーター株式会社（大阪市）などの出資により平成21年末に設立した農業生産法人。松本市梓川に研究拠点を構え、松本市が自主再建を断念した発芽玄米を扱う第三セクターの事業を引き継いでいます。

同社は、安曇野菜園の社員・パート従業員110人の雇用について、「基本的には現状の雇用の維持に努める」としています。また、菜園の資産を3億800万円、菜園が購入を約束していた長野県農業開発公社所有地も約1億5千万で購入します。安曇野菜園はこの資金をもって、損失補償契約に基づく金融機関からの債務等の返済に充てる方針です。

宮澤市長は「四つの喫緊課題の一つが大きな山場を迎えた。清算に向け、しっかりと軌道に乗るよう、市としての支援を行っていきたい」と述べています。

エア・ウォーター株式会社青木弘会長兼社長(写真右)と宮澤市長(写真左)

■安曇野赤十字病院の改築事業が完了

改築を進めていた安曇野赤十字病院のすべての工事が完了し、3月8日に現地でしゅん工式が行われました。

安曇野赤十字病院（澤海明人院長）は、救急救命や先進的高度医療などの医療や、臨床研修医の教育機関としての役割など、公的医療機関として大きな役割を担っています。

市では安曇野赤十字病院建

設支援検討委員会を組織するなど、建設支援の調査、研究を重ね、利用者へのアンケート調査の結果の反映などをお願いし、約34億6256万円を補助しました。新しい病院は、6階建て全館免震構造。災害にも強い病院となりました。また、集中治療部門の新設、透析ベッドの増床、手術室の増室など、地域の中核病院としての設備を強化し

ています。そして、十分に安全な駐車場（294台分）と車両通路の整備、診察と会計の番号案内システムの導入など、利用者の視点を生かした設備となっています。

完成を祝い宮澤市長は「安全で安心できる医療体制の確立は市民の願い。今後も、地域から信頼される病院として発展していただきたい」とあいさつしました。



完成した安曇野赤十字病院